

令和 4 年 9 月 7 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02321

研究課題名(和文) 『百科全書』の編集史的研究 知の生成と転位

研究課題名(英文) Study on the Redaction History of the Encyclopedie

研究代表者

逸見 竜生 (HEMMI, TATSUO)

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：60251782

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：『百科全書』項目に参照された文献の確定、およびその目録化、を期間内に計画していた初期巻について実現することができた。その結果、『百科全書』が同時代のいかなる学知的言説に同テキストが主に依拠しているのか、執筆者たちの主要典拠のおおよその傾向を原典を参照しつつ把握することができた。第1巻についての項目、参照されたテキストは公開した。また、研究手法として援用したデジタルヒューマニティーズのプログラム開発も実現した。国際学会で成果の一部は発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近世ヨーロッパ思想の代表的な著作である『百科全書』の実証的な本文批判研究を、国際的な共同研究機関とともに実施し、これを主導した。同書の本文の諸相に関わる実証研究は20世紀後半から飛躍的に進展したが、解明すべき点はなお少なからず残されている。本研究は編集史的観点からその全容を試みたものである。本研究が開発したテキスト批評とその分析成果は国際的にも着目されるに至ったものであり、さらなる深化と洗練化が期待される。

研究成果の概要(英文)：By the end of the project, we were able to (1) determine the references to the encyclopedia entries in the early volumes and (2) catalog them, as we had planned to do by the end of the project. As a result, it was possible to ascertain, with reference to the original sources, the approximate trend of the author's primary sources and what was the scholarly and intellectual discourse of the time on which the encyclopedia primarily relied. In addition, the entries and referenced texts in the first volume were made available to the public. We also realized the development of the "Digital Humanities" program, which we supported as a research methodology. Some of the results were presented at international conferences.

研究分野：フランス文学・思想史

キーワード：フランス啓蒙思想 『百科全書』 デイドロ ダランベール 近世書物史 デジタルヒューマニティーズ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 『百科全書』本文研究の学術的蓄積

人文情報学分野の発達で古典籍デジタル化の急速に進んだ今世紀初頭より、『百科全書』本文批判研究には、急速に注目が集まっている。申請代表者は、『百科全書』本文項目の典拠研究を世界に先駆けて開始することにより、先行文献群の組織的な本文への取り込みの様態を実証し、これまでの調査で解明されていなかった、大規模な未知の資料群の層を初めて発見した。これらの資料群と本文項目を照合させ、両者の相関性の特徴を解明したのであるこれら典拠資料層を組織的に解明することにより、申請者らは、各本文項目のテキストの生成過程にかかわる多様な要素が、包括的に明らかにできることを示した。

### (2) 国際共同研究ネットワークの形成と本研究グループの国際的貢献

申請者らのこの予備的研究は、幸いにも国内外にて大きな反響を呼んだ。国外においては、その着眼点への高い評価を受け、フランス国立科学アカデミー委員会事業「百科全書電子校訂版編集委員会」をはじめ、複数の国際学術機関研究者と『百科全書』共同研究を進め、特に典拠文献批判を中心に国際的『百科全書』共同研究ネットワーク体制の構築に資してきた。それら国際共同研究成果の一部は、同委員会により WEB 公開され、先端的な学術成果を世界に発信している。

『百科全書』研究の世界的権威アラン・チェルヌスキー（ローザンヌ大学）教授は、その国際ディドロ学会誌寄稿論文（2009）、および「ディドロと『百科全書』研究の現状と展望」（2010）、において申請代表者の研究を同研究領域の将来への方向性を示す優れた業績として紹介した。同じく『百科全書』と 18 世紀思想史研究の権威アン・トムソン（ヨーロッパ・インスティテュート）教授の最新著『近世ヨーロッパにおける靈魂論の精神史』（2013）にも同研究成果が引用された。申請代表者はまた、2016 年 3 月にはリヨン高等師範学校古典思想史研究所にて招聘教授として滞在、講演、セミナー、シンポジウムを主催し、研究交流を深めた。『百科全書』研究以外の応用面としても、同研究所で今年度よりスタートした、西洋初期近代における他の叢書（『パリ王立科学アカデミー提要・論集』）の本文校訂と典拠資料の国際共同研究（フランス、カナダ、韓国）に、申請者グループの基礎研究が活用されており、調査のさらなる進展が期待されている。

### (3) わが国における研究の気運の高まりと本研究参加者の寄与

わが国においても、申請者らは、慶應義塾大学デジタルメディア研究機構学術共同研究「近代百科全書主義プロジェクト」、同プロジェクトを継承した『百科全書』本文のデジタル化および本文典拠文献等情報（メタデータ）抽出と解析に関する学術共同研究を牽引してきた。これら共同研究の成果は、2012 年度以来、国際シンポジウム開催や査読付き外国語論文集を定期的に刊行し、積極的に公開してきた。申請者のグループはまた、2016 年度には仏語による「『百科全書』第 1 巻典拠総索引」刊行、2017 年度には日仏の研究者の『百科全書』研究共同論集刊行（法政大学出版局）を予定しており、国外のみならずわが国の学術的蓄積にも広く寄与している。本共同研究は、以上のように国内外の研究交流と協働を通じて得られた積年の成果を踏まえ、そこで開発した手法をさらに高度に発展させるものであり、本文形成のより体系的な確証にもとづく『百科全書』本文批判構築に向けて、国際的基盤を確立することを課題とした。

## 2. 研究の目的

本研究が考察の焦点におくのは、

『百科全書』項目本文の文献批判論、特に典拠となる先行文献資料の本文への累積的な取込の様態の組織的解明

項目校編者による編集意図を再建し、源泉資料の再生ないし改修、転位の様態に新たな光をあてて、各々の校編者の関心や意図を包括的に明らかにする編集史的考証（2018 年・2019 年）である。本研究は『百科全書』本文巻刊行史上の最初期（1751-1753）に分析を限定し、『百科全書』初期 3 巻を対象とする。これは、本文形成の動的な変容が最も活発に観察される時期であり、これら初期巻が十分に解析される意義は大きい。そのうえで、とによってえられた知見に基づき、

各対象巻に提示される知識分類と、その編集の全体像を明らかにし、その総体を『百科全書』項目間の内的連続性のなかに位置づける（2020 年）。各巻全体にみられる知識間の連関と組織化の様態を解明し、そのうちで働いている歴史的諸要因と叙述意向を、総合的に評価するのである。このように、文献批判と編集批判を組み合わせ、本文テキストの生成（）、加工によるその編集史的転位（）を組織的に考証する。それらの知見に立ち、より高次の観点から『百科全書』全体の編集意図を総合的に解明する（）。以上 3 点が、本研究のサブテーマである。

### 3. 研究の方法

第1に、『百科全書』の典拠資料の確定は、まだ部分的にとどまっており、特に対象とする学術領域によって調査の進度に偏差があるという困難がある。資料層の解明のためには、百科全書記述の特性を史的批判により十分に解析し、自然・人文・社会科学にまたがる、多様な初期近代学術領域の包括的理解が必要となる。本研究では、従来の研究が到達できなかった地点を越えるべく、初期巻に着目してこれら資料層とテキスト生成のプロセスを総体的・横断的に解明した。

第2に、『百科全書』源泉批判と本文様態の解明は、単に静態的な典拠調査や材源確定の問題で終わらない。広く『百科全書』の編集的加工における、事象的な諸々の動因や意図の解析に接続させることが必要であるが、これまでこの側面は、十分に明らかになったとは言いがたい。本研究では、海外の一線の研究者と協力して、編集の過程で『百科全書』本文に取り込まれる際にもとの意味上の力点が、いかに転位されたか、編集史的側面に注目することでその動態的な解明を行う。これにより、『百科全書』の言説戦略の様態を、実証的に明らかにした。

第3に、『百科全書』文献批判研究により、18世紀テキスト文化の歴史的解明は大きく前進する。このため、他の歴史的に重要な初期近代を中核とする学芸著作資料の文献批判に、広く適用しうべく、これまで開発してきた方法論を拡張した。

以上3点から、『百科全書』本文研究に累積してきた課題の解決に向けて、国際的視野に立脚して明確な方向性と指針を与える結果をもたらすべく、国内外で実現が待たれる『百科全書』本文批判校訂版の編纂に向けての大きな持つことになるとともに、国際学術機関と連携しての他の学芸著作本文批判にも応用可能とした。

この実現のために、国際的学際研究組織として国内外の以下の研究者ネットワークの構築に務めた。

#### (a) 日本

研究代表者、研究分担者、国内の研究協力者が日常的に交流できる場として、申請代表者らが組織する「『百科全書』啓蒙研究会」を活用した。この研究会には本研究申請全メンバーが参加している。2011年より『百科全書』に関わる国際・国内シンポジウム、セミナーを開催、また全員の寄稿する研究報告書『百科全書・啓蒙論集』(非売品、300部)を2012年以来3冊刊行した。

#### (b) ヨーロッパ(特にフランス)

ヨーロッパの協力拠点は、申請者グループの主要メンバー(逸見、小関)が参加する(1)フランス国立科学アカデミー委員会事業「百科全書電子校訂版編纂委員会」、および申請代表者が招聘教授として滞在した、(2)リヨン高等師範学校古典思想史研究所の2機関とした。(1)アカデミー委員会委員カトリーヌ・ヴォルピヤック=オジエらと合同で国際シンポジウムを開催、また国際共同論集を準備することなどを始め、すでに相互に活発な学術交流を行っており、本研究申請期間全期間を通じ緊密に相互の研究協力をおこなった。(2)リヨンENS古典思想史研究所では、(2a)申請代表者の招聘者ピエール・ジラル教授の率いる18世紀フランス啓蒙知性史研究・人文デジタル批評校訂版研究グループとの研究協力を実現した。(2b)またフランソワ・ペパン教授(哲学、リヨン高等師範学校)、マリア・スザナ=セガン教授(18世紀科学思想史、モンペリエ大学)をリーダーとする、フォントネル科学思想研究・「『パリ王立科学アカデミー提要・論集』本文電子化」プロジェクトにも、2016年3月に研究協力を要請し、最終の国際シンポジウムの共同開催への参加いただいた。

#### (c) 韓国

韓国の協力拠点は、国立ソウル大学校人文学研究院フランス文学科とする。2016年5月に申請代表者が同校および韓国18世紀学会より招聘を受けて同校に赴き、イ・ヨンモック教授(18世紀政治思想史、ソウル大学人文学研究院副学長)と会談し、本科研申請と共同研究の申請について同教授の率いる啓蒙思想研究グループからの協力の同意を得た。共同研究の窓口にはイ・ヨンチョル教授(18世紀科学思想史、漢陽大学)が務めることが決まった。同研究グループとは、2013年5月(ソウル、日韓18世紀学会)、2015年7月(ロッテルダム、国際18世紀学会)、2016年3月(リヨン高等師範学校古典思想史研究所)にて『百科全書』国際シンポジウムも共催しており、長い研究交流実績があった。

#### (d) 北米

北米からはカナダのミシア・リウ=ポーヌ准教授(18世紀科学思想史、オタワ大学)、また米国のウリンダ・モストフェ教授(18世紀政治思想史・文学、ボストン大学)にも最終シンポジウムへの協力を要請し、受諾されている。デジタル人文学の研究蓄積がめざましい北米における『百科全書』・啓蒙期著作本文批判研究の最新の知見に立った研究協力を仰いだ。

### 4. 研究成果

本研究は、『百科全書』典拠資料確定のための国際研究体制の構築を企図し、それぞれの課題細目につき、2017年以来以下の海外共同研究者に研究協力を行って研究成果を発表してきた。第1群:Catherine Volpi Ihac- Auger(リヨン高等師範学校、モンテスキュー研究)、Pierre Girard

(リヨン第3大学教授、同国際学部長) 第 II 群 : Maria Susana Seguin(モンペリエ第3大学教授)、Franois Pepin(リヨン高等師範学校古典思想史研究所教授)。第 III 群 : イ・ヨンモック(ソウル大学教授)ら韓国を中心とするフランス 18 世紀研究、特に韓国 18 世紀学会との協力である。2017 年の本研究開始以来、本研究に関わり学会等で主催した国際シンポジウム・ワークショップの件数は 10 点以上にのぼる。その間、リヨン高等師範学校客員教授として国際研究を深めるとともに、ソウル大学との共同研究も組織的に進めた。国際 18 世紀学会エジンバラ大会では、本研究に関わる国際シンポジウムを開催し、研究成果の公表に務めた。2021 年 10 月からは、ソウル国立大学(韓国)、リヨン高等師範学校/Labex Comod (フランス)、パリ第 1 パンテオン・ソルボンヌ大学(フランス)、モントリオール大学(カナダ)、オタワ大学(カナダ)、ウベルランディア連邦大学(ブラジル)との若手研究共同セミナープログラムも実施し、本科研費プロジェクトの成果を広く国際的な教育分野にて公開し、次世代への社会的責任を果たすべく努力してきた。本主題に関する国際共同論集を刊行したほか、折悪しくコロナウィルス感染拡大により研究期間最終時期ととなったが、典拠研究成果である目録刊行は 2022 年 3 月に実現した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 飯田賢穂	4. 巻 132
2. 論文標題 ルソーにおける行為の道德性の問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 哲学雑誌	6. 最初と最後の頁 319-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井田尚	4. 巻 60
2. 論文標題 『百科全書』の項目「アリストテレス主義」、「逍遥学派哲学」、「哲学」の参照指示ネットワークと分散化されたアリストテレス主義批判	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部『紀要』	6. 最初と最後の頁 119-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小嶋竜寿	4. 巻 67
2. 論文標題 辞典を舞台にした商業論争	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要フランス語・フランス文学	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井田尚	4. 巻 26
2. 論文標題 『百科全書』の無署名項目IGNORANCEの引用群とディドロの痕跡	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青山フランス文学論集	6. 最初と最後の頁 68-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋竜寿	4. 巻 24
2. 論文標題 解説 ロバート・ジェームズ『医学総合辞典』フランス語版	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 MediaNet	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 2件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Tatsuo Hemmi
2. 発表標題 Reecriture, Genese, Reseaux de savoirs dans l'Encyclopedie
3. 学会等名 SECS 2019 International Congress on the Enlightenment (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 逸見龍生
2. 発表標題 百科全書への検閲形態とその主体」、小関武史「切り裂かれた『百科全書』」コメント
3. 学会等名 日本18世紀学会研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuo Hemmi
2. 発表標題 Philosophie et Litterature au 18e siecle
3. 学会等名 日仏若手啓蒙思想研究共同セミナー(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tatsuo Hemmi
2. 発表標題 S'interroger sur les Lumieres dans l'Asie de l'Est
3. 学会等名 Les Lumieres dans leurs contextes (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井田尚
2. 発表標題 『百科全書』の無署名項目 IGNORANCEの引用群とディドロの痕跡
3. 学会等名 『百科全書』・啓蒙研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 INOUE Sakurako
2. 発表標題 Article "Interet (morale)"
3. 学会等名 Seminaire de l'Edition numerique collaborative et critique de l'Encyclopedie (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 隠岐さや香	4. 発行年 2018年
2. 出版社 星海社	5. 総ページ数 256
3. 書名 文系と理系はなぜ分かれたのか	

1. 著者名 逸見 龍生、小関 武史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 406
3. 書名 百科全書の時空	

1. 著者名 Tatsuo Hemmi et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Editions Materiologiques	5. 総ページ数 220
3. 書名 Diderot, l'humain et la science	

1. 著者名 Sayaka Oki et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 220
3. 書名 The Foundations of Political Economy and Social Reform: Economy and Society in Eighteenth Century France	

1. 著者名 逸見龍生	4. 発行年 2017年
2. 出版社 『百科全書』・啓蒙研究会	5. 総ページ数 137
3. 書名 『百科全書』・啓蒙研究論集第4号	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	淵田 仁  (Fuchida Masashi)  (00770554)	城西大学・現代政策学部・助教    (32403)	
研究分担者	井田 尚  (Ida Hisashi)  (10339517)	青山学院大学・文学部・教授    (32601)	
研究分担者	川村 文重  (Kawamura Fumie)  (40759867)	慶應義塾大学・商学部(日吉)・准教授    (32612)	
研究分担者	小嶋 竜寿  (Kojima Ryuju)  (50704269)	慶應義塾大学・文学部(三田)・講師(非常勤)    (32612)	
研究分担者	隠岐 さや香  (Okii Sayaka)  (60536879)	名古屋大学・経済学研究科・教授    (13901)	
研究分担者	小関 武史  (Koseki Taksshi)  (70313450)	一橋大学・大学院言語社会研究科・教授    (12613)	
研究分担者	飯田 賢徳  (Iida Yoshio)  (90806663)	青山学院大学・文学部・客員研究員    (32601)	
研究分担者	井上 櫻子  (Inoue Sakurako)  (10422908)	慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授    (32612)	2017年まで

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	寺田 元一  (Terada Motoichi)  (90188681)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授    (23903)	2017年まで

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 初期近代におけるテキストのデジタルアーカイブ構築にむけて 国際人文学共同研究の可能性を求めて	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Diderot en Deplacement	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Editer les Oeuvres completes de Montesquieu	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Literature and Politics : telling philosophy in the French 18th century	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 LE SAVOIR DES LUMIERES, RENCONTRES FRANCO-JAPONAISES	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 国際研究集会「啓蒙 政治・プラクシス・読解」	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関